

❖2014 年度の活動報告

＜今年度の方針＞

1・法人の理念を引き継ぎ、職員一人ひとりが意見を出し合いながら、こどもにとって・保護者にとって安心して預けられる保育園をめざす。

- ・今年度の職員会議では「食べ物文化」で食事・アレルギー対応等テーマを決めて交流しあう。日々の保育を振り返りながら、給食室が中心になって話せる場となった事は良かった。
- ・園内研修、私立保育園連合会、経営懇研修、東社協、品川区主催等外に出て研修をし、月の会議で報告した。共通の理解を深め合う時間はなかったが、研修した職員全員が報告できた事は良かった。
- ・5月23日、法人の保護者を対象に「こどもたちの健やかな成長・発達を願って」＝新しい保育制度の学習会＝を開催した。全体で45世帯の参加者があり、制度が変わる事への関心と不安から質問も出ていた。
- ・第3回法人研修では「保育課程」を基に、現在の姿と照らし合わせながら検証し、「子どもの最善のりえき」を保障するための理解を深めた。加筆、訂正しながら互いの交流を深めた研修となった。又第47回東京合研がH27年度に開催される事を全職員に知らせ、合研に向けて色々な取り組みに出来るだけ参加していけるよう呼びかけた。

2. 安心して生活がおくれるよう、保育環境を整える。

＜施設・設備について＞

- ・2F天窓からの雨漏りがあり、施工業者に依頼し視察後シーリング工事をする。同時にB1F誘導灯移設工事をする。
- ・保育環境をより快適にする為、1歳児室、幼児組(東側)にカーテンをつける。直射日光が強く、空気の流れも悪い為、感染症等の流行防止も考慮し2F幼児組と階段の一部、又通気性が全くなかった1F2歳児室に網戸を設置した。その事で換気も良くなりこども達も過ごしやすくなった。
- ・開園時からグラつきがあり機能していなかった1歳児西側のベビーガードの補強をする。又同時に幼児組非常階段が雨により腐敗し避難時かなり危険な状態だった幼児組非常口を遮音・防滑性階段用床(平鋼鉄製階段)の材質タキステップを貼り修繕した。同時に幼児組すのこ(ウッドデッキ)の一部がへこみ修繕をする。
- ・厨房用排水管つまり、掃除の仕方にも原因があった事がわかった。流し〜グリストラップ土間配管工事をする。
- ・2F、3歳児室・5歳児室と3F西の開閉ドアのガラス飛散防止フィルム工事をする。安全で快適な保育環境を今後も目指したい。
- ・開園当初から継続して、放射能線量の計測をしている。駐輪所、花壇塀際、植え込み、植栽部分、アーチ下が最大0.10(9月)あったが、平均して数値は低い。

3. 地域とのつながりを積極的に持ち、交流する場を積極的に持ち、交流する場をつくっていく。

- ・パートナー登録者の保育体験や子育て講座を行った。特に「マミーとあそぼう」や行事は楽しみにしているようで馴染みの方の参加が多かった。子育て講座の参加者の中で3世帯の方がH26年度入園した。しかし出前保育に関しては企画はするが地域の公園に出かけても対象児が居ず、交流しあう場を持つのが難しかった。

4. 子供を真ん中に「父母の会」と手つなぎ氏、保育園の行事や運営を共に考えあえるようにしていく。

<保護者との関係>

- ・「父母の会」が発足。総会を経て、本格的な活動がスタートする。特に夕涼み会のコーナー企画では、保護者の方々のアイデアに職員も力を頂く。園運営をする上で、職員間だけで得られない連帯を感じる事ができた。
- ・運動会や餅つき会等保護者の手伝いは父母の会で呼びかけてもらい助かった。

<保育>

- ・4月、59名から5月以降61名と増え、保育集団が大きくなった事で様々な活動の見直しや、新たに検討しあう課題も多かった。体制の所では産休に2名が入り、保育の代替え職員も出産を控えた職員だった事で、厳しい体制状況があった。又体調を崩し病休にはいった職員が2名（妊娠による）その間新たに非常勤職員を採用し体制の緩和を計った。
- ・個人面談を年2回持ち、職員・非常勤の悩みや疑問、要望に耳を傾けながら解決出来るよう努力した。法人の理念や方針を示し理解をして頂くよう努めた。より良い保育をめざし職員間の連携を大切にしてきたが、なかなか難しい面もあった。
- ・非常勤職員は開園当初からの方々に本当に助けられている。多少保育間のちがいはあるものの、何か問題があったときは、面談のほかに個人的に話しをもち改善できる様努力した。
- ・リーダー会議を定例で持ち、各部署で起きている様々な問題点などを共有しあった。
- ・5歳児はふれあい動物園や絵本の読み聞かせの企画で緑の家保育園と交流をもった。行事だけではなく普段の保育の中で、もっと行き来しあえるとよかった。
- ・第二回「卒園式」では6名の卒園児を迎える。3歳児から入園した子どもたちで、出入りの多いクラスで女児5名、特別支援児の男児1名という事もあり関わりの難しさはあったが自然に接する姿の中に、成長を感じる場面もあった。
- ・利用者調査書では58.9%の回答があった。全体的に満足度97%と高かったが安全面では50%と低かく家具の固定がされていない事を心配する声があった。家具の固定は全クラスでチェックし転倒防止を行った。
プライバシーでの指摘（連絡ノートが開きっぱなし・ノートの入れ間違い）や怪我に対する園の方針に対するご意見を頂く。保育内容や職員ひとり一人の資質にばらつきがある事もだされた。給食は満足度が高かった。アンケートの結果をフィードバックしていく事が大切という事で、掲示の工夫をしたり、行事の催しの前にお伝えした。今後も保護者のご意見・要望は真摯に受け止め、進捗状況を発信できる様努めたい。

<給食>

- ・安心、安全な給食を提供できるよう、業者と連絡を取り合った。八百屋の業者が年度途中で変わったが混乱なく仕入れができています。
- ・アレルギー児の対応については指示書を基のメニューのチェック・給食室と保育で復唱しあう等細かい注意を払い提供した。

- ・新年度5名のアレルギー児（牛乳・卵・ゴマ・落花生）10月から6名、1月からは納豆の除去もあった。
- ・食事変更届を使用した園児に対して2回同じ提供をする誤食があった。報・連・相が十分で来ていず反省だ。保護者との懇談を持ち、改善方法を示しご理解を頂く。

（給食室に変更届の欄を設け、必ず関わる保育士が確認をする）

- ・地域の親子が保育体験で離乳食の試食を体験した。家庭ではなかなかお粥を食べないが、園のお粥は全部食べてくれて嬉しい驚いた、と感想を述べる。直接0歳児室で他の子の食事の様子を見ながらできたのも良かったようだ。

<保健>

- ・感染症のインフルエンザ2名、シラミは0名だった。日々の健康・衛生面に関して独自に作った模型で子どもたちにわかり易く身体のしくみを指導し、時間を見つけて健康に関する話をしていた。
- ・今年度は大きな怪我もなく、狭い園庭だが変化に富んでいて、遊び方にも慣れてきたのだと思われる。
- ・法人研修で感染症マニュアルについて意見交換ができた。まだ、まとめるまでには至っていないが、今後はガイドラインを参考に、法人のマニュアルを完成させていきたい。

<研修計画・人材育成>

- ・経験年数にとらわれず、法人の保育方針や理念を理解し子どもと向き合う姿勢をポイントにリーダーを決めた。リーダーになったことでリーダーの気持ちや全体を見る力、保育の運営等にも目を向けられるようになりつつある。
- ・研修計画は主任と話し合いながら、職員ひとり一人の学びが保育や今後の人材育成に繋がるように心がけた。

H26年度園児数

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	他区含む
0歳児	7	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	106	
1歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132	
2歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132	144
3歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	119	132
4歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	
5歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	72
合計	59	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	681	730

一時保育

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児										1	2	4	7

アレルギー除去・代替食

区分／月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5	5	5	5	5	5	6	6	5	5	6	6	64

